

著書『エミール』を読む のご紹介

一次期学習指導要領改訂『論点整理』における「民主主義」「デジタル技術の民主化」についても議論しましたー 苫野一徳先生（熊本大学准教授）

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

<https://smizok.com/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

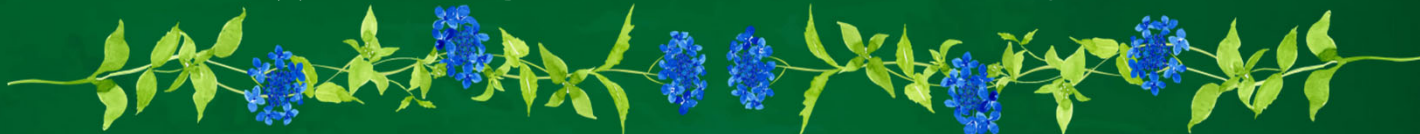
(ご紹介)



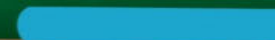
苦野一徳
とまの・いっとく

哲学者・教育学者
熊本大学大学院教育学研究科准教授

早稲田大学大学院教育学研究科博士課程修了。博士（教育学）。経済産業省「産業構造審議会」委員、熊本市教育委員のほか、全国の自治体・学校等のアドバイザーを歴任。



主な著書に、『どのような教育が「よい」教育か』（講談社）、『勉強するのは何のため？』（日本評論社）、『教育の力』（講談社現代新書）、『「自由」はいかに可能か』（NHK出版）、『子どもの頃から哲学者』（大和書房）、『はじめての哲学的思考』（ちくまプリマー新書筑摩書房）、『「学校」をつくり直す』（河出新書）、『ほんとうの道徳』（トランスビュー）、『愛』（講談社現代新書）、『NHK100分de名著 苦野一徳特別授業 ルソー「社会契約論」』（NHK出版）、『未来のきみを変える読書術』（筑摩書房）、『学問としての教育学』（日本評論社）、『『エミール』を読む』（岩波書店）、『親子で哲学対話』（大和書房）などがある。





苫野 一徳 (2024). 『エミール』を読む 岩波書店

序章 天才だけど人でなし。そんなルソーをどう考えるか？

第1章 ルソーの思考法

第2章 無菌室で育てない！

第3章 欲望と能力を調和させよう

第4章 「自己愛」をねじ曲げない

第5章 性教育と道徳教育

第6章 理想の恋愛を求めて

終章 ルソーが示した道しるべ

それではご覧ください

『エミール』を読む

苫野一徳（熊本大学）

エミール(上)

ルソー著

今野一雄訳



「万物をつくる者の手をはなれるときすべてはよいものであるが、人間の手にうつるとすべてが悪くなる」という冒頭の言葉が示すように、ルソー(1712-78)一流の自然礼讃、人為排斥の哲学を教育論として展開した書。ある教師がエミールという一人の平凡な人間を、誕生から結婚まで、自然という偉大な教師の指示に従って、いかに導いてゆくかを小説の形式で述べてゆく。(全3冊)



青 622-1
岩波文庫

徳一野苦

Ittoku Tomano

『エミール』を 読む こんなに おもしろかった!

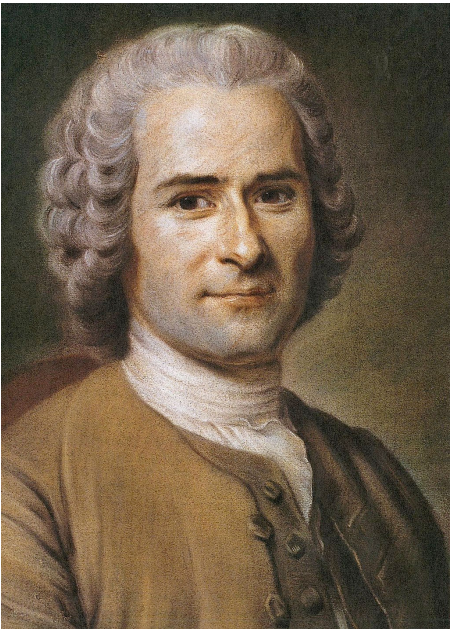


ルソーに惚れ込む気鋭の教育哲学者が、いまなお役に立つその考え方と魅力をやさしく、そして情熱的に語る。

絶対挫折しない
『エミール』入門
決定版!



定価(本体2100円+税) 岩波書店



ジャン=ジャック・ルソー
(1712~1778)

「あれしなさい、これしなさい、あれするな、これするな」とばかり言われて育った子どもは、そのうち「息をしなさい」と言われなければ呼吸さえしなくなるだろう。

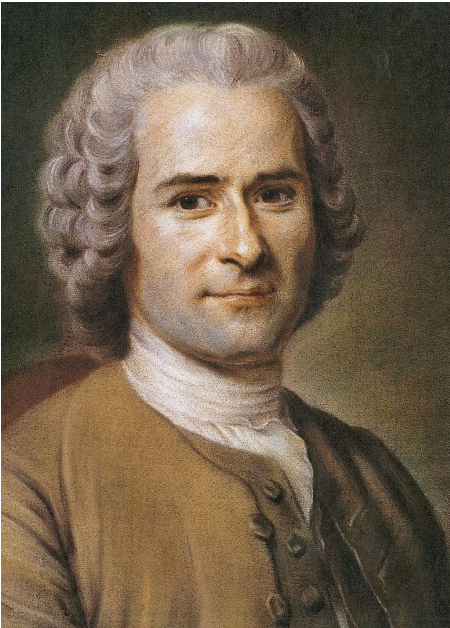
『エミール』 (1762年)

教育の基本中の基本は・・・



信頼して、任せて、
待って、支える

哲学書の読み方



(1) 問いは何か？

(2) どのような方法で挑んだか？

(3) 答えは何か？

『エミール』の読み方

エミール(上)

ルソー著

今野一雄訳



「万物をつくる者の手をはなれるときすべてはよいものであるが、人間の手にうつるとすべてが悪くなる」という冒頭の言葉が示すように、ルソー(1712-78)一流の自然礼讃、人為排斥の哲学を教育論として展開した書。ある教師がエミールという一人の平凡な人間を、誕生から結婚まで、自然という偉大な教師の指示に従って、いかに導いてゆくかを小説の形式で述べてゆく。

(全3冊)



青 622-1
岩波文庫

(1) 問いは何か？

→人間が自由になるための教育とは？

(2) どのような方法で挑んだか？

→人間の「自然」な成長を洞察せよ

(3) 答えは何か？

→「自然」な成長をめいっぱい大事にせよ

→①無菌室に閉じ込めない、②過剰な欲望で苦しめない

③遊ぶように学ぶ、④性の目覚めはゆっくりと、⑤『社会契約論』へ

『エミール』の構成

エミール(上)

ルソー著

今野一雄訳



「万物をつくる者の手をはなれるときすべてはよいものであるが、人間の手にうつるとすべてが悪くなる」という冒頭の言葉が示すように、ルソー(1712-78)一流の自然礼讃、人為排斥の哲学を教育論として展開した書。ある教師がエミールという一人の平凡な人間を、誕生から結婚まで、自然という偉大な教師の指示に従って、いかに導いてゆくかを小説の形式で述べてゆく。

(全3冊)



青 622-1
岩波文庫

第1編：エミールが0歳から1歳ごろまで（乳児期）

第2編：言葉を覚え始める1歳ごろから12歳ごろまで（幼児期から学童期まで）

第3編：12歳ごろから15歳ごろまで（青年前期）

第4編：15歳ごろから20歳ごろまで（青年中期）

第5編：20歳ごろから結婚するまで（青年後期）

『エミール』の構成

エミール(上)

ルソー著

今野一雄訳



「万物をつくる者の手をはなれるときすべてはよいものであるが、人間の手にうつるとすべてが悪くなる」という冒頭の言葉が示すように、ルソー(1712-78)一流の自然礼

儀、人為排斥の哲学を教育論として展開した書。ある教師がエミールという一人の平凡な人間を、誕生から結婚まで、自然という偉大な教師の指示に従って、いかに導いてゆくかを小説の形式で述べてゆく。(全3冊)



青 622-1
岩波文庫

第1編：エミールが0歳から1歳ごろまで（乳児期）

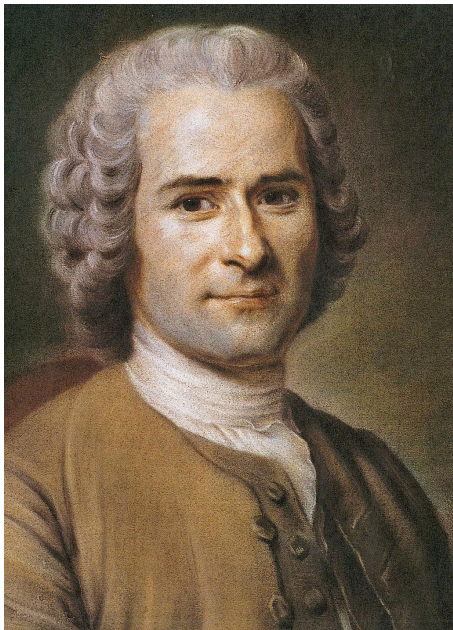
第2編：言葉を覚え始める1歳ごろから12歳ごろまで（幼児期から学童期まで）

第3編：12歳ごろから15歳ごろまで（青年前期）

第4編：15歳ごろから20歳ごろまで（青年中期）

第5編：20歳ごろから結婚するまで（青年後期）

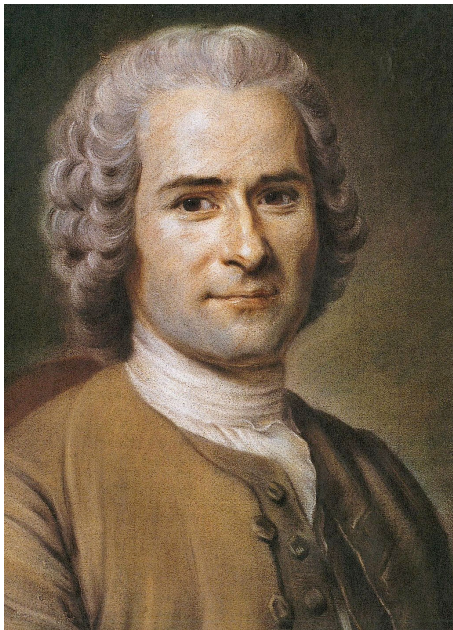
①無菌室に閉じ込めない



「自然はたえず子どもに試練をあたえる。あらゆる試練によって子どもの体質をきたえる。」

「わたしはエミールがけがをしないように注意するようなことはしまい。かえってかれが一度もけがをせず、苦痛というものを知らずに成長するとしたら、これはたいへん困ったことだと思うだろう。（略）1日に百回ころんでもいい。それはけっこうなことだ。それだけはやく起きあがることを学ぶことになる。」

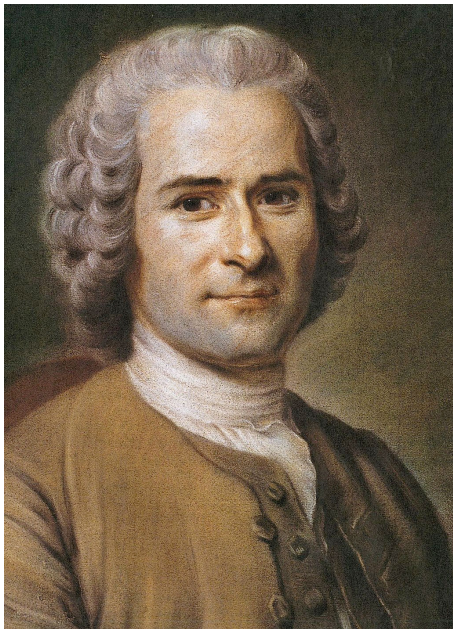
②過剰な欲望で苦しめない



「子どもを不幸にするいちばん確実な方法はなにか、それをあなたがたは知っているだろうか。それはいつでもなんでも手に入れられるようにしてやることだ。」

「わたしたちの**欲望と能力とのあいだの不均衡のうち****にこそ、わたしたちの不幸がある。**その能力が欲望とひとしい状態にある者は完全に幸福といえるだろう。」

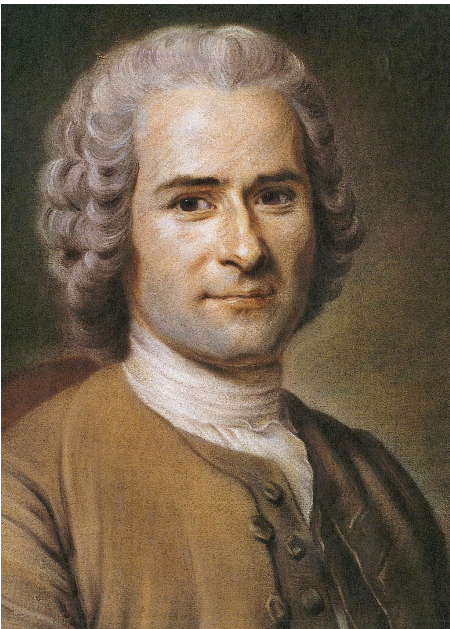
大人が子どもを不幸にしてはいないか？



「まことに奇妙なことに、子どもを教育しようと考えて以来、人は子どもを導いていくために、競争心、嫉妬心、羨望の念、虚栄心、貪欲、卑屈な恐怖心、といったようなもののばかり道具につかおうと考えてきたのだが、そういう情念はいずれもこのうえなく危険なもので、たちまちに醗酵し、体ができあがらないうちにもう心を腐敗させることになる。」

→過度な競争、比較によって、嫉妬心や虚栄心を植え付けるな。（都会からなるべく遠ざけよ。）

ではどうすればいい？

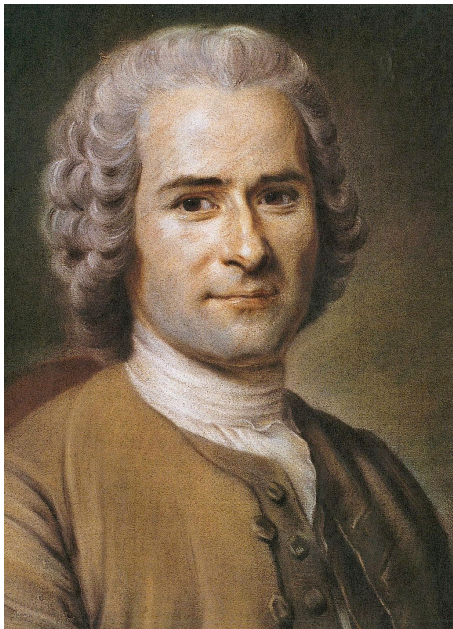


「人はあらゆる手段をもちいるが、ただ一つだけはもちいない。しかもこれだけが成功に導くものなのだ。それはよく規制された自由だ。」

→ちゃんと守られた中で、自己選択・自己決定が尊重された環境

→安心してチャレンジや失敗ができる環境

③ 「遊ぶように学ぶ」を体験する

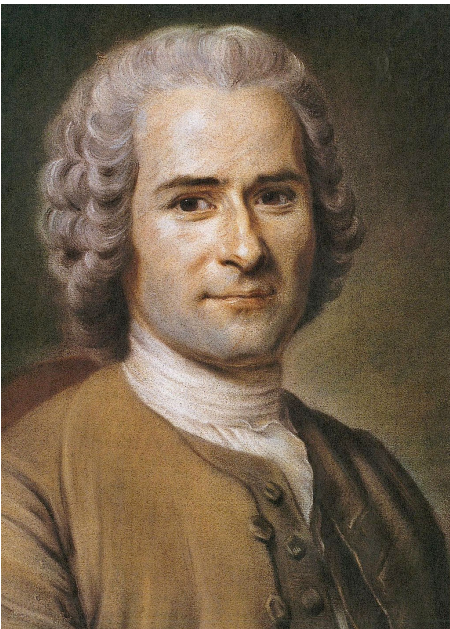


「大事なことは、子どもにとっては学びが遊びのようであること、生活をいっそう楽しいものとするための創意工夫であって、強制的なつらい仕事であってはならないということだ。」

→理解できない言葉や記号ばかりつめ込んで、学びを嫌いにさせないように。

→子ども（人）は、頭だけでなく体で学ぶ。

子どもを見る目を鍛えよう



「この初期の教育の大きな不都合は、それが聡明な人にしかわからないということ、そしてこれほどの苦勞をして育てた子どもも、凡俗な人の目には腕白小僧としか映らないということだ。」

⑤ 『社会契約論』 へ

どちらも1762年出版。

自由な人間をいかに育めるか？→『エミール』

自由な社会をいかに作れるか？→『社会契約論』

『社会契約論』の読み方



(1) 問いは何か？

→よい社会とは何か？／法・権力の正当性の原理は何か？

(2) どのような方法で挑んだか？

→人間的欲望の本質（自然）を洞察せよ

→人は必ず「自由」に生きたいと願う

(3) 答えは何か？

→「社会契約」と「一般意志」

社会契約とは何か？

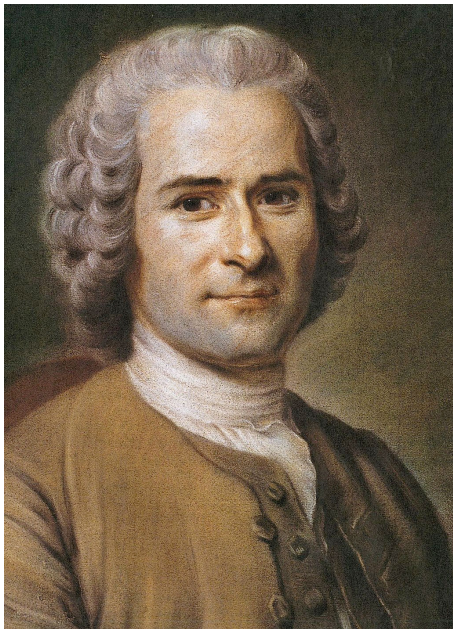


G.W.F.ヘーゲル
(1770~1831)

→お互いが対等に「自由」な存在であることを認め合う約束

→「自由の相互承認」 (ヘーゲル)

「一般意志」とは何か？



→みんなの意志を持ち寄って見出しあった、みんなの利益になる合意

→これのみが法＝権力の正当性の根拠

民主主義の本質は、

「自由の相互承認」と「一般意志」にあり！

ルソーの生涯をかけた問い：

「自由な社会」と、そこにおける「自由な人間」はいかに可能か？

→「自由の相互承認」と「一般意志」に基づく民主主義社会の構想

→のびのび「自然」に成長できる人間の教育（無菌室の外で／過剰な欲望にさいなまれることなく／遊ぶように学ぶ）